

BERLIOZ SYMPHONIE FANTASTIQUE



第24回 定期演奏会

昭和49年12月13日(金)

神戸文化ホール

神戸大学交響楽団

指揮：岡田 司 今井方丈

ピアノ独奏：宮本 玲

ごあいさつ

神戸大学交響楽団顧問 新 保 博
神戸大学経済学部教授

音楽にかぎらない「愛と情熱」をもっている者にとって、演奏会を開くことはつねに変わらぬ「夢」です。会する者が互に心をかよわせ、ともに楽しむ「舞踏会」にも似て、音楽を通じて演奏する者と聴く者とが心をつにすることができるならば、それはわれわれの無上の喜びです。十分な練習をつんだとはいえ、われわれは未熟です。今夕の演奏が、われわれにとって「断頭台への行進」となるか、「ワルプルギスの夜」になるか、お聴き下さった方々の判断に委ねるほかはありません。われわれとしては、オーケストラの華麗な「幻想」の世界へ、皆様を誘うことができれば、とねがうのみです。

響友会々長 岩 崎 純 一

第24回定期演奏会を迎えることになりました。お蔭さまで神戸大学交響楽団も追々内容が充実して参りました。これはとりもおさず近來学生諸君の音楽に対する関心の深まりであり、且つ交響楽団員諸君の日頃の努力研鑽と、ひたむきな情熱の高まりの結果であると思います。団員数が増えるに伴い、とかく相互のコミュニケーションの不足が起り易いものでありますが、之を充分克服して良くまとまった学生交響楽団として成長して参りましたことは誠に嬉しく又心強く思っている次第です。我々響友会々員一同も神戸大学交響楽団の発展に少しでも役立てばと、及ばず乍ら協力しているものですが、本日は昭和四十九年度の総決算として学生諸君の一年間の努力の結晶を別掲のプログラムによって発表出来ますことは誠に同慶の至りと存じます。

未熟な点は多々あると思いますが若き情熱を傾けて一心に練習を積んで参りました成果をゆっくりに鑑賞して頂き度く存じます。御來場の皆様のご声援を得て本日の演奏会が有意義なものになりますよう心からお願い申し上げます。

神戸大学交響楽団部長 松 井 清

本日は御多忙中、ようこそ御來場下さいました。

年に何回も演奏会を行うプロのオーケストラと違って私達学生オケにとっては一回の演奏会の重みは一口では言えないものがあります。この2時間足らずの中に練習に練習を重ねた全部員の努力が集約され、次の飛躍への出発点でもあり同時に思い出でもあるからです。我々は未熟ながらも毎年大きな曲に取り組んでまいりましたが、今年はバルリオーズの手になる有名なシンフォニー「幻想交響曲」をとり上げてみました。定演でフランス物を演奏するのは数年ぶり、勿論のこと幻想は初めて手がける作品です。

尚今年はピアノ協奏曲を間にはさむ事によりプログラムとしてはお楽しみ頂けるのではないのでしょうか。

どうか最後までゆっくりにとお聴き頂くと共に皆様方の率直な御批判を賜わる事ができますれば幸いです。

プ ロ グ ラ ム

ベルリオーズ

ラコッツィ行進曲

～劇的物語「ファウストの劫罰」より

ベートーベン

ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15

I Allegro con brio

II Largo

III Rondo, Allegro Scherzando

— 休 憩 —

ベルリオーズ

幻想交響曲

I Réveries-Passions (夢と情熱)

Largo—Allegro agitato e appassionato assai

II Un bal (舞踏会)

Valse, Allegro non troppo

III Scène aux champs (野の風景)

Adagio

IV Marche au Supplice (断頭台への行進)

Allegro non troppo

V Songe d'une nuit du Sabbat

(ヴァルプルギスの夜の夢)

Larghetto—Allegro—Allegro assai

—Allegro—Poco meno mosso

山は富士 酒は—

清 酒

白

シ ラ

雪

ユ キ

小西酒造株式会社

曲 目 解 説

ラコッティー行進曲

ベルリオーズ

不遇の作曲家ベルリオーズにとってこれほどの成功はまれであった。今ではフランスロマン派の開祖とあがめられているベルリオーズが当時は初演のたびの不評に悩み苦しんでいたのは他ならぬ彼の天才によるものであった。あの幻想交響曲にしてもこの曲ほどの歓呼は得られなかったのである。一般の聴衆とはそのようなものである。

彼自身の「回想録」によると「怒涛のような歓呼」をもって迎えられたこのラコッティー行進曲は言うまでもなくハンガリーの革命指導者ラコッティー将軍にゆかりの歌をもとにしたもので、この成功に気をよくしたベルリオーズは後に彼の大作「ファウストの劫罰」の中にむりやりこの曲を入れてしまいました。曲は華々しい管弦楽法を駆使した効果的なもので古今の行進曲中の名曲の1つに数えられるものであろう。

ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15

ベートーベン

ベートーベンとピアノが不可分の関係にあったことはピアノの名手としての彼の生い立ちから考えれば極当然のことであろう。彼の演奏家としての天才ぶりは、その即興演奏の卓越した妙技や、その異様なまでに情感のこもった表現力によって大いに発揮されたということである。彼は耳の疾患によって演奏を中止せざるをえなくなるまで、ピアノの演奏家として多大な名声と絶讃を博したのである。事実彼は自作の5曲の協奏曲のうち第4番まで全ての初演に独奏者として出演しているのである。

第1番と題されるこの曲は成立年代においては第2番よりも後であって、その楽器編成の規模においてもその楽曲の構成力においても第2番をしのいでおり、初期の傑作の一つである。ベートーベンが（アレグロ）コン・ブリオを好んで用いたことは周知の事実ではあるがこの曲でも第1楽章にこの発想記号を用いている。典型的な協奏風ソナタ形式でありこういったところに先輩ハイドンやモーツァルトの影響が色濃く漂っている。しかしはつらつとした明るい主題は青年ベートーベンの毅然とした態度がうかがえ、好感の持てるところである。

緩徐楽章ラルゴはその甘美さ故にロマン派の萌芽を感じさせずにはいない。その旋律の美しさは特筆に値するものがある。

第3楽章は型通りのロンドフィナーレ、アレグロスケルツェンド。構成は型通りであっても、そのメロディは彼一流のものである。この楽章を聴いてまさに春の息吹のようなものを感じると述べた人がいたがその例え方はどうであれ、この楽章には彼の面目躍如たるものがある。

作曲年代1794(?)～1796年、初演1798年プラハコンヴィクト講堂、オーデスカルキエ侯夫人献呈。

名 曲
珈 琲

らんぷる

神戸 三宮 トーアロード 高架上 東
TEL (331) 0281



幻 想（その現在の評価）

“天才と狂人は紙一重”という使い古された言いまわしがまさにピッタリ。サドやヴィヨンと共通するフランスの血が生んだ異常なる人間ベルリオーズ——彼の並はずれた自意識と誇大妄想がこのポピュラーなシンフォニーを形づくっているすべてだといえるでしょう。元来ベルリオーズと言うと、オーケストレーションの神様等と呼ばれているわけですが、作品番号14というこの早い時期には、それほど際立った特長は見られず、むしろ稚拙さが目立つ結果となっています。そして又、和声にしても、斬新さは感じられるとはいえ、すきまだらけの初歩的段階の個所も数多く、標題性も、それ程音楽と密着したものでもなさそうです。こう考えてくると、現在この曲に与えられている絶対的評価（相対的評価はともかくとして）は、もう一つの的を得ていないような気がします。では、この作品を傑作と呼ばせている理由は、どこにあるのでしょうか。それは、後年のドビュッシー、ラベルに見られるのと同様な音に対する印象主義的アプローチにあると思います。そのインスピレーションこそが、この偉大なる狂人を天才にまで仕立てあげた最たる原因でしょう。そして、彼の彼たるところがこの曲には、まだまだ出ていないというのも又、事実なようです。



「繁栄」から「反映」 への道標

みちしるべ

AC 安宅産業株式会社

大阪本社 大阪市東区今橋5丁目14 ☎(06)231-8461 大代表
 東京本社 東京都千代田区大手町1丁目6-1 (大手町ビル) ☎(03)217-2111 ダイヤルイン交換
 名古屋支社 名古屋市中区錦2丁目15-22 (錦銀ビル) ☎(052)201-3271 大代表
 支店その他 八幡/福岡/札幌/広島/金沢/仙台/その他全国主要都市

指揮者のプロフィール



岡田 司

フルート、ピアノ等を学び朝日ジュニアでオーケストラ活動に参加。その間作曲理論、指揮に本格的な興味を抱き後に斎藤秀雄氏らの教を請うことになった。

当オケには47年に入部。ヴィオラを奏き、同年冬に学生指揮者になった。以来当オケとは尾高のフルート協奏曲、運命、ハイドンの104番「ロンドン」、ドボルザークの8番に続いて5回目の舞台である。

こんな彼も一度指揮台を降りると21才とは思えない童顔を振りまき、またその口から飛び出す言葉は大変ユーモラスで皆を爆笑させ音楽と取り組んでいる時の彼からは想像できないような一面を見せるのである。我々が彼に期待することは幅広い人間性を備え、彼の持つレパートリーを広げてほしいということだけである。(幻想交響曲およびピアノ協奏曲第1番ハ長調を指揮)



今井 方 丈

兵庫高校吹奏楽部を経て、当オケに入部。一年間ファゴットを学んだが、今年から、古巣のクラリネットに移り、サブ・コンを務めることになった。最初は、きこちなかった彼の指揮ぶりも、近ごろはやや落着き、彼本来の真面目さとあいまって、部員の信頼を獲得しつつある。しかし、彼は吹奏楽畑から足を洗いきれない人間の一人で、時たまその方面の所用で練習をすっぱかして部員を困らせるが、それらを土台にして、より大きく成長してくれることが我々の願いでもある。(ラコッツィ行進曲を指揮)

もしものときでは遅すぎるのです
大同生命は
確かな安心づくりの
お手伝いをいたします

個人向掛け捨て保険●定期保険

大同生命

本社 大阪府吹田市江坂町1丁目23番101号



ソリストのプロフィール



宮本 玲

私達が定演でコンチェルトをするのは3年ぶりですがすばらしいソリストを迎えることができました。宮本さんは明朗な方で音楽に対するホットな情熱と虚飾のない態度は私達のすばらしいお手本となりました。彼女の一言たりともおろそかにしない愛情のこもった演奏には胸を打たれるものがあります。(先日のリサイタルの時のショパンのソナタ)

- 〔略歴〕 1966. 11 第20回全日本学生音楽コンクール高校の部西日本第一位に入賞
 1972. 3 相愛女子大学音楽学部器楽学科ピアノ科専攻卒業
 1973. 10 相愛女子大学新人演奏会に出演(於大阪厚生年金会館)
 1973. 12 日演連推薦ヤマハリサイタルに出演(於大阪厚生年金会館)
 1974. 10 オルヒデー・クララ・ピアノリサイタル(河村京子さんとのジョイントリサイタル)

ザルツブルグ・モーツァルテウム夏季講座(1967)、ワルシャワ高等音楽院夏季講座(1973)受講。

上村典子、マグダ・タリアフェルロ、マルグリート・トロムビーニ・カズロ、片岡みどり、井口基成の諸氏に師事。



コンサートマスター 岩田 ちゑ里

その柔和な笑顔、豊かな体格、えくぼのうき出る愛らしい手、その手にかかえられる3/4のバイオリンの豊かな甘い響き、バイオリンを弾く時の、聞く者の胸に迫ってくるような身のこなし。愛らしさとたくましさ、やさしさと力強さが彼女の内には少しの矛盾なく表面はおだやかにおさまリ、そしてその豊かな音色からしか、内なる感情はうかがわれないのである。彼女のバイオリンの音には、すべての形容詞が可能であり、時には優しく、また悲しく、あるいは喜ばしく、そして誇らし気に、あらゆる感情を表現して、聞く者の心に安らぎをもたらさずにはいない。

さて日頃おとなしい彼女も、コンパの夜には皆をてんでこ舞いさせる主役に変貌するのであり、1stの連中は譜面台とミュートをもって、深夜彼女に召集されるのである。

ともあれ四年間、外大から神大まで通いつめて、御苦労さまでした。彼女の来春の卒業を前に、少し悲し気なバンザイを…。

BE-16

森 昌子

かぜひきさんベンザ®です

☆非ピリン系カゼ薬

ハイベンザ

☆顆粒タイプの非ピリン系カゼ薬

ハイベンザ顆粒

☆ピリン系カゼ薬

ベンザトップ

☆お子さまのカゼ薬

小児用ハイベンザ

効能＝鼻みず・鼻づまり・のどの痛み・悪寒・発熱・頭痛…カゼの諸症状の緩和に。

ほかに ベンザせきどめ・ベンザデタイム・ベンザ鼻炎用 もあります。

ベンザは「使用上の注意」をよく読んで正しくお使いください。



タケダ



岡田 司

音楽は心である

例えば「ア」と言ってみたととしても、独立した言葉として、その意味を他人に理解させることはできない。が、1つの音としては「アノ」とか「ア？」とか「アーア」というふうに、何か感覚に訴えてくるものがある。ひょっとしたら、これこそ、音楽そのものではないかしら。

ある批評家の演奏評にいわく“大自然の孤独と寂寥が実感される”“遅いテンポによる夕映えのような情感”等々…。音楽がそんな尊大な精神芸術の象徴なら、あすからやめようかな、つきあうのを。

そんな抽象的な空想の世界をさまようのもよいけれど、音楽をするには（それを創るにも、演奏するにも、そして聞く場合においてさえ）それに関するルールやテクニックを知ること大切ではないだろうか。といっても音程が何度とか、指がどれくらいまわるかといったようなテクニックの為のテクニックでなく、音に心をこめ、又心をさぐり出す為のものを少しでも知ることが必要であろう。

Pの音にしてもいろいろある。聞こえないくらいのもものから、わりに大きいめのもの。うすっぺらいP。すみきつたP等数知れない。その一つの音にささやかな人の心の機微——ちょっとした喜びや悲しみ、さみしさ等をこめそして又聞きたる。それこそヒロイックな精神主義から、音楽を本来の姿に解き放つことではないだろうか。

そして、その為に音楽を学び知ることは、音楽する者の、音楽に、又人に対する愛情であるといえはしないか。

そう、音楽は愛なのかもしれない。

そして、愛ある人にとって、かけがえのない心の糧として、いつまでも響き続けるにちがいない。——と私は思うのだけれど…。



自然の味！

純正材料が

おいしさのひみつ

ドイツ菓子

Fachrein's

ユーハイム

本店 神戸市三宮生田神社前
三宮店 神戸市三宮大丸前市電筋
さんちか店 神戸市三宮地下街スイーツタウン
心齋橋店 大阪市心齋橋筋大丸前

一枚のレコード

武田之通

こんな話がある。某作家が喫茶店で討論の途中、話題が音楽へと移った時に、流れているベートーベンの第五交響曲を耳にしなが、「現在の音楽はあまりにも通俗的なのだ、例えば今流れているこの曲などもそうだ、君ノベートーベンの運命を聴いてみ給えノそれこそ音楽の神髄というものだよ」と彼は大真面目に一演説ぶったというのだ。

現在の日本人の、とりわけクラシックに対する音楽観などというものは、全くこの類の領域から一步も出ていないように思われてならない。教養としての音楽——この忌むしい、聞いただけで背筋に悪寒の走るような、体面主義の権化みたいな言葉は、今日全国のホールというホールを埋め尽くさんばかりの勢いであろう。レコードにしても然り。全集物が大流行の昨今、いったいどれだけの人間がその全集を全て聴き、真面目にその価値を検討しているのか？考えれば考える程、人々の欺瞞めいたものが目につくばかりで、故事にいう伯牙と子期の関係はもはや夢でしかないのかと索漠とした気分になる私である。

○

廉価盤が数多く出回るようになった昨今でも、やはりレコードは高級品である。学生にとっても月に二枚三枚とそうやたらと買えるものではない。節制を強い、アルバイトを有効に利用して初めて何枚かのレコードを我物とできるのである。そういった中で、一枚一枚こつこつと買い集める。一枚一枚が青春時代の楽しい思い出として脳裏に刻み込まれる。総数はほんの微々たるものであろうし特別の整理棚もいらない、リスニングルームといえど何の設備もない四畳半、マシンは至極平凡な二流品——そのような外見を気にしないひたむきな姿こそ、真のクラシック愛好家の姿ではないかと思われて仕様がな。何も全集物を買うなどと言っているのではない。FMから流れる見知らぬ曲にはうと感動し、早速レコード店に走るといった態度が欲しいというのだ。見栄とか体裁とかいったものを捨て去った白紙の姿勢で一枚のレコードに向うことが最も望ましいのだ。ベートーベンの第九を持たないからといって少しも恐縮することはない。貴方がシェーンベルクのファンで「浄夜」を秘蔵盤にしているなら、それはそれで他人の立入る領域ではないからである。

あすの ゆたかさを考える



エッセイ

Sehr geehrter Herr Schumann!

Ich danke Ihnen herzlich für Ihre Freundlichkeit.

H. Berlioz 中 埜 晶 夫

「拝啓親愛なるシューマン様

あなたは1836年冬、ライプツヒにおける『宗教裁判官』序曲の上演に、私の作品に対する公正な理解と最大級の評価をもって骨を折ってくださいました。それは私の作品が初めて外国で演奏された輝かしい記録であり、以来この曲はヴァイマルやブレーメン、さらにはベルリンといった大都会でも上演されることになったのです。またウィーン、ミラノ、ニューオーリンズからも私のところに上演の申込みがまいりました。これらすべてあなたがライプツヒで先鞭をつけてくださったおかげです。

またあなたは、あなたがその中心的寄稿者・編集者として主宰している『音楽新報』で、私の才能を独創的卓抜なるものとして何度も賞賛してくださいましたし、そればかりでなく私の創作態度を、あなたの幻想に存在した音楽上の俗人たちと戦うダヴィッド同盟の闘士にふさわしいものとして、私のドイツ国内における名声を高めるのに大いに尽力してくださいました。これは当時祖国フランスにおいてさえ、『エキセントリックな自意識の強い無謀男』としての評価しか得ていなかった私にとって、心強い励みとなったことは言うまでもありません。

これらあなたの力強い擁護に対して、心からの感謝を捧げます。

あなたのエクトール

追伸：あなたが論文集『音楽と音楽家について』でかなり詳細に分析批評を行なった『幻想交響曲』は、現在私の作品の中で最もポピュラーなものになっています（これもあなたの功績によるところが大きいのですが）、世界中のあらゆるオーケストラがそのレパートリーに組み入れております。そして次第にアマチュアのオーケストラまでもが取り上げるようになってきております。今日かの神戸の地では神戸大学交響楽団が演奏することになっているのですが、草葉の陰から彼らの青春の“夢と情熱”を安んじて御傾聴ください」

* * *

19世紀から20世紀初頭にかけてのほぼ1世紀は、音楽史上のロマン主義思潮が非常に支配的傾向にあったという意味から一般にロマン派の時代と呼ばれる。ロマン主義とは、常識的了解の範囲で、豊かな想像力と独創性を基調とし自由奔放な情感の表出を重んじる主観的、流動的創作態度を指すものであった。これは18世紀末の文芸思潮の中で育まれてきたものであり、それ以前の明快な直観力と厳格な形式的調和を尊重する古典主義に対峙せられるものであった。すなわち古典派の時代が形式秩序の時代であったのに対し、ロマン派の時代は自由表現の時代であったのである。

こうしたロマン派時代を構成した幾多の作曲家の中で果して誰が最もロマン的であるのだろうか。また誰がこの時代を代表する作品を多く残したのだろうか。この問いに対して、その発展力と影響力の偉大さからワーグナーの名を挙げる人も多いであろうし、またそれに対立するブラームス、あるいはイタリアのヴェルディと答える人もいよう。しかし最もロマン的な詩趣を強く感じさせる作曲家は他ならぬロベルト・シューマンではなかったろうか。シューマンこそロマン的という言葉が示す範ちゅうの最も内奥に近い部分に位置する、典型的なロマン主義作曲家に違いないのである。ハイネの“五月のうろわしき朝に”につけたメロディーを聴けば、何人たりともこの見解に異論をさしはさむ余地がないことは明らかになるであろう。

* * *

お隣りさん! サントリービール〈純生〉



私はシューマンという作曲家が好きである。それはひとつにはもちろん彼の抒情的で詩的幻想的な香りの高い音楽によるものであるが、また彼の芸術の真実さに対する内面的な誠実や自己を律する立派な責任感と使命感のためでもある。そしてまたクララへの思慕と作風の推移との関係に対する知的興味にも基づくのである。彼の結婚に至るまで（この間彼とクララは隔絶を余儀なくされ、不安と絶望に苛まれる日々の連続であった）の数々のピアノ曲の傑作——とりわけ『幻想曲』や『ダヴィッド同盟舞曲集』『幻想小曲集』などには、クララへの強い情熱と思慕が秘められ、動情的な緊張をはらみ、聴く者を深い感動に誘う。またクララとの結婚の年に書かれたたくさんの歌曲——とりわけ『詩人の恋』や結婚前夜クララに捧げられた『ミルテの花』などにはクララに対するいつくしみと喜ばしい感情が気高く表わされ、夢に見るような美しい抒情が通うのを感じる。

彼は短期間にあるジャンルの曲ばかりをたてつづけに作曲した。——1830年代のピアノ曲、40年の歌曲、42年の室内楽曲……。そしてこのことを後の彼の精神分裂と関連づけて説明する人もいるが、決してそれだけに留るものではない。と言うよりもそれ以上に彼の作曲の集中性は、彼の自己の内側に対する忠実さによるのではないだろうか。彼は自己のあふれるような靈感のほとばしりを一曲のみに止めることはできなかったし、完全さへの意欲がさらに靈感を強める方向に還元していったのである。そこには彼の人並み以上の責任感と使命感が働いたのに違いない。

シューマンの業績の中でも特に忘れてはならないのが彼の文筆面での活動である。彼は『音楽新報』を発行し輝かしい批評文を紹介することによって、シューベルトに正しい評価を与え、ショパンの美しい才能を絶賛し、若きブラームスを華々しく楽壇に登場させたのであった。そしてベルリオーズの特異な天才も、彼のすぐれた批評の力によってドイツ音楽界中が知るところとなったのである。

* * *

シューマンは『音楽と音楽家について』の中で『幻想交響曲』について次のように書いている。

「思想の鋭い浸透性や力強さをそこなうことなくいかなるものも抜き差しできない。このような無駄も不足もない一種の完璧さがすべて何と大胆な手法で完成されていることだろう。……音楽は、拍子の厳格な規則に圧迫されていなかった太初に再び立ち戻り、拘束から解放された独立した奔放な説話や、より一層高度で詩的な句読法にまで高まろうとするかのように思われる……」

「僕らも真に巨大な幻想に身を没し、幻想の赴くがままに筆を揮ってみたい。……」

「強烈な青春の心情が初めて爆発するところでは、全く誰にも奪いとることのできない独特の力が内在している。たとえその口調が粗野を極めたものであっても。……」

「低俗な市民根性では計りきれないこの火のような青年を見たまえ！」

「和声は、多種多様の組み合わせをわずかな手法で行なうという意味での一種の単純さの面においても、ベートーヴェン同様卓越している。……」

「旋律はすべて独特で巧まざる良さというものを持っているが、細かい挿入部の旋律は、その反対に全く個性を脱却して、普遍的でより高度な美しさに高められている。……」云々。

ところがシューマンはこれらの記述のような全面的無制限の賞揚にのみ終始しているわけでは決してない。自分にはないものを持つ相手に敬意を払いながらも、部分的な自意識による反発を拭い去れないのである。例えば

「願わくば僕らがこうした箇所（不明瞭で曖昧な和音や歪んだ和音）を美しいと祝福する時は決して来ないように。……」

しかし、とは言うもののこの記事に一貫しているものは、「新しい曲にも暖い心で接するように。知らない名だからといって偏見をもたないように。」《彼の音楽の座右銘》という高貴寛容な態度である。

* * *

人が他の何物かを評価する時、その評価主体は必ず自己であり、また評価標準も直接的であるにせよ間接的であるにせよ必ず自己である。評価主体としての自己が評価標準としての自己から分離することなど絶対にあり得ない限り、完全な一般的客観的评价などとうてい不可能であろう。しかし評価をより正確づけるためには、偏見、嫉妬など特殊な感情を排することが必要となる。これはただでさえ実践し難いものであるが、評価の対象が自己と同一の立場にある場合なおさらである。

150年近く経てすっかり固まった今日の価値判断からして、シューマンはその困難をやり遂げている。彼は未だフランス国内でも認められていなかった新進ベルリオーズを、正しい（今日から見て）評価をもってドイツ楽壇に紹介したのである。彼が作曲家として当然持っていただろうと思われる慧眼ばかりに目が注がれるあまり、真実により近い彼の謙虚さや道義に対する義務感を見失うことのないようにしなければならない。これらは人が最近頃に忘れてきている貴重なものではないかという気がしてならない。

シューマンは私にたいへんな感銘と教訓を与えた。文頭に掲げたような文面を果してベルリオーズが書いたかどうか、私の知るところではない。しかし私は信じていた。ベルリオーズがこのような手紙を書いたことを。たとえ書かなかったとしても感謝の念を思い浮かべたことを。それは私のシューマンに対する気持ちに裏付けられるからという理由だけではない。天才間の協和音がその末端において響くのが聴こえてくるだけでも何と美しく響くことだろうか。

無題

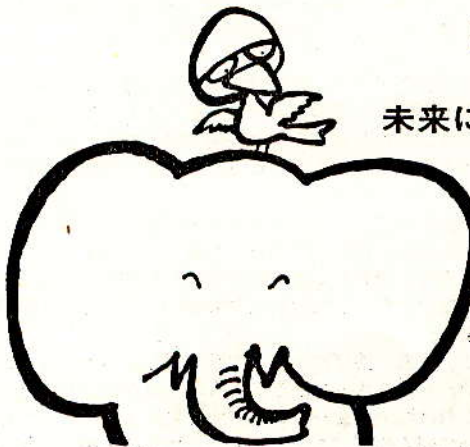
谷口喜章

伸び放題の髪、くたびれた服、常に孤独と向きあうような厳しい顔、およそ常識とは無縁な、しかし（あるいは「それゆえに」）数々の金字塔たる作品を産み出した人——これが、おそらく大部分の人々のベートーヴェンに対する認識の最初のものであるに違いない。確かに、彼の音楽には他には見られない奔放さがあり、それが大きな魅力となっているのだが。同時に石のごとく動かし難い厳しき、誠実さを感じない訳にはいかない。

彼のスケッチブックが教えるものは、天才たるものが素通りすることのできない夥しい苦しい努力の跡である渾沌を秩序に置き換えるという天才の作業を、彼は実に天才らしく周知まで行った。その創作態度から産まれるこの渾沌から秩序への移行は、作品の上に見事に結実する。揺るぎない形式がそれである。二つのまきに対照的なものの提示、それらの反発、合体を経て純粋な発展を遂げ完結する。こう言ってしまうと、いかにも冷たく感じるが、彼の音楽はそれを何とも素晴らしく実感させるのだ。ベートーヴェンのソナタ形式に触れる時、そこに我々は秩序の意味と孤高な建造物としての人間を感じる。

使いたくない言葉だが、彼の音楽についてよく言われる「苦悩から歓喜へ」という言葉がある。頻繁に語られるには、あまりに言葉そのものの美感を欠いているからなのだが、それが照らすところの本来の純粋さを信ずるならば、これほどベートーヴェンの音楽に的確に光を当てる言葉もない。彼はその誠実さのゆえ、その熱さのゆえ、己が感情を、喜び、苦しみ、あるいは悲しみを押さえることなく誇張することなく五線紙に吐き出した。その結果我々は、人間の感情というものが、これほどにまで幅広く豊かであり、人間の持つ至宝であることを感得する。実際、彼の音楽の苦悩の、喜びの表現は、我々の持つことのできる音楽の最も崇高な証である。

感情の振幅を極限にまで広げることによって、彼は我々に人間というもの本来の力強くたくましく高貴な姿を見つめさせてくれる。そして、そこには、現身の我々とその本来の我々の姿との間には、彼の投げかけてくれた愛に満ちた彼方の、だが夢ではない自由への架橋が燦然と輝いているのである。



Let's Grow up!
衣・食・住の分野で
未来に向かって挑戦する…
イトマン

チームワークを
大事にしたい

小鳥はすばやい身のこなしで、いち早く社会情勢を把握します。巨体をゆすって象さんは先取の長征に出かけるのです。調査・認識・行動——チームワークをはなれてないうるものではありません。

総合商社 **伊藤萬株式会社**
大阪市東区安土町2丁目30 国際ビル内
●お問い合わせ TEL 06-252-1212(代表)
06-252-1024

こ の 一 年

私達学生オーケストラの評価は一般的に非常に低く、社会的な理解はまだまだと言えます（実際にあまり高い実力があるとは言えませんが）。この記録が私達の活動の実態を知っていただく手助けになれば幸いと存じます。

昭和48年12月21日 第23回定期演奏会終了後役員改選
 オイゼビウス（以下E）「目的とされる音楽追求が技術向上にのみふり向けられているのではないか」
 フロレスタン（以下F）「最終目標は部員各自が自己の満足を得ること。満足の性格によってモメントを置きかえればよい」
 E「我々の活動には技術的にもっと先に進んだ人（プロ）がいることで演奏会を開く社会的意味を失する」
 F「拘束されることなく自主的に皆が一体となって立ち向かう強い姿勢こそかけがえがない。部員が多いことによる意志疎通の欠除や官僚的中央集権的機構を乗り越えてそれを推し進めなければならない」

6月15日 第3回神戸大学音楽祭

F「各サークルの演奏会のダイジェスト版というさんざんな評価しか残さなかった。合同演奏もなく各サークル間の共通項は完全に忘却された」
 E「各サークルともやり出したということだけですっかり満足して停滞している。発展の可能性はない」

6月29日 KOBE ORCHESTER-FEST '74

（甲南大学交響楽団との合同演奏会）

E「合同練習の時間をもっとふやすべき。特にパートごとの合同練習に主眼を置けばかなりの成果が期待できた」
 F「君は構想だけが大きかった。中ホールということで広報を躊躇しすぎた。君の論理からすればこの演奏

会こそ大規模なキャンペーンを行なってもよいはず」
 （甲南大学交響楽団のみなさん、どうもありがとう）

7月6日 神戸市立友生養護学校にて演奏会

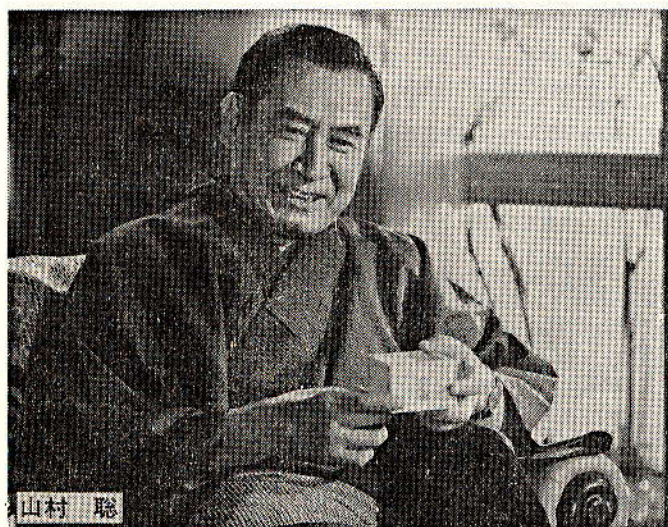
E「君は単なる慰問に終わらせてはならないと思っていた。」
 F「しかし結果的には演奏を一方的に与える形態で進められた。君は初めから何かを恐れすぎている。もっといろいろな冒険を行えば良かった。君の博愛主義はきれすぎる」
 E「養護学校の先生や生徒さん方は学習活動の一環として考えてくださった。それだけでも良いというのは君の気安めだ。確かにもっとやり方はあった。君に時間がなかったということは理由にならない。生徒さん方の真剣な学習時間をいかすかどうかだから」
 （この演奏会のために作曲してくださった渋谷憲幸君どうもありがとう）

8月27日～9月3日 夏季強化合宿

E「なぜ彼らはあれほどバカスの魅力にとりつかれるのだろう。まるで逃避か忘却のようだ」

12月13日 第24回定期演奏会

E「“幻想”の技術的困難さは自由な活動を阻むテクニックによる差別を助長する。奏ける者だけが満足し、うわべだけを飾る演奏会であってはならない」
 E「君は資金集めと広報を盲目的に行ないすぎるのではないのか。それがもたらす影響や責任について考えないのか。ただ客席をいっぱいし演奏会を無事終わらせるだけでよいのか」
 E「演奏会が無事に終われば何もかもが美化されてしまう。こんな充足にひたりきってよいのか」



山村 聡

舌をころがり
喉うるおす さわやかな味わい
日本盛の変らぬ旨さに
心ゆだねるとき
ふと思いつく懐かしの唄

変らぬ味わいに
ひかれるひととき

日本盛

西宮酒造株式会社

4年生のプロフィール



村 羽 井 芳 野

井 田 川 本 崎

藤 松 松 藤 上
本 井 本 本 原
(利) (真)

村 井 悦 子 (1st Vn) 教育学部

2年からバイオリンを始めたにもかかわらず、その練習熱心さで、今年の定演では1stの座を獲得した。細い体にファイトを貯え、楽譜を一心に見つめ、やや首をかしげてひくその姿には、年令を感じさせないひたすらさがあって、筆者の胸をうつのである。彼女はピアノ科に籍をおき、この定演のピアノ・コンチェルトでは、練習時にソロの代役を果たして我オケに尽くしていただいたのである。三月の卒演を控えて、現在悪戦苦闘中であるが、持ち前の頑張りで素晴らしい演奏を聞かせてくれるだろう。

羽 田 善 子 (Vc) 神戸外大

常に喧騒なチェロパートにおいて決して自分を見失うことなく、確固として自己の世界を形づくっているのが彼女ではないだろうかと筆者は思うのである。だから日頃から目だたないようだがチェロパートにとってはなくてはならないチェリストの1人として、今日の演奏会でもチェロを奏でてくれるのである。チェロを始めたのは2年からだそうであるがそんなハンディーもものともせず静かな闘志をもって、がんばっておられるのです。

井 川 和 子 (2nd Vn) 教育学部

大学一年からバイオリンを弾き始めて、三年間セカンドを守り、今年の定演は都合により出演されないが、その見るからに頼もしい様子といい、ピオラK嬢にも匹敵する毒舌といい、今なおセカンドの重要な構成メンバーである事は間違いない。包容力のある笑顔と愛らしい声には、誰でも親しみを感じずにはいられず、来春からは小学校の先生一というより小学生達の頼りになるお姉さんとして人気を集めるであろう。

芳 本 賢 治 (Fl) 経営学部

何と言っても芳本さんが神大に少なくともあと一年残ることを余儀なくされているということは、団員にとってうれしいことです。それほど彼は神大オケの中での大切な存在の一人なのです。フルートを持って今年で11年になるというその音色には、さすがに聴く人を引きつけるものがあります。あのふっくらとした体全部を共鳴させているのかと思われるほどの豊かな重みのある音は何か安心感に似たものを与えてくれます。合宿でのかの有名な往復いびきが少し気になりますが、あと二、三年残って頂けたら、なんて思います。

野 崎 富 夫 (Cl) 工学部

いつもにこにこして笑うと八重歯がかわゆいのです。こう書くと女性的な印象を与えるかもしれませんが、その華奢な外観とは裏腹に登山が好きで暇を見つけてはよくリュックを担いでいます。最近はスカンダルの噂が？彼は入部間もなく2ndのTop(?)を吹かせてもらい、以来2ndのソロパートを吹くことに生き甲斐を感じています。その彼が一年先輩であり同輩でもある(?) I氏とのくさりねっと・こんびを結成してから早や3年になります。今日はその絶妙のアンサンブルをとくとお聞き下さい。

なおオペラ・グラス等お持ちの方一言言い添えますと、背筋を伸ばし、八重歯のためにわずかに斜めに構えて、垂直に近い角度で演奏するあの“野崎奏法”をお見逃しなく。

藤 本 明 利 (Ob) 経済学部

氏のプロフィールを書くというのは、非常に困難なことである。

オーケストラでともに1年半を過ごして今なお、氏が何を考え、何をなさんとしているのかよくわからない有様なのであるが、神大住吉寮を寝城に、日夜旺盛な活動力を誇っているらしいことは想像にかたくない。

氏のオーボエはまことに華美であり、ソロを吹く時などまさに面目躍如たるものがある。(天性とでも言うべきであらうか) その音色からしてオーケストラの中において氏のオーボエは際立った存在なのである。

松 井 清 (Tp) 経済学部

私は秘かに松井氏を尊敬している者の1人であるが、彼が築き上げた功績は長島にも劣らないであろうと思う。それは楽器係→マネージャー→部長というエリートコース制度を確立し、あの突飛な部長あいさつで一世を風びしたのは他ならぬ彼なのである。その彼が去ってしまうのかと思うと私のようなさびしがりやは胸から熱いものがこみあげ、思わず嗚咽してしまうのである。Tpの腕においてもかのO氏にも比せられるテクニックを誇り数々の迷演、迷録音を残してきた。(運命、となり組など) まだまだ彼の功績をあげるときりがないが彼の将来を考えるとこの辺でやめた方がよさそうな気がする。

今夜の幻想の4楽章に御注目あれ!!

松 本 浩 (Hr) 工学部

彼はアルバイトに、遊び一般に(これは手広く)、ほんのしばし講義に、そしてそのあいまをぬってクラブへととなかなか忙しい人なのです。それなのに彼はいつも田園ムードいっぱいの温和な顔を我々に見せてくれるのです。しかしその顔には音楽に対する、とりわけホルンに対する情熱が満ち満ちてあふれんばかりなのがわかりでしょう。その情熱の成果が今宵の演奏に現われるのです。また、その彼には(これはきっとホルン・パートの将来を考えて)少なくとももう一年はクラブに残ってもらえそうなのです。ホルンもこれからまた乱れ……いや、これで当分は安泰でしょう。

藤 本 真 一 (Trb) 経済学部

一見、トロンボーンの面子の中では、一番まともな人とも思われがちであるが、そんな彼にも思わぬ一面がありそう。目立たないが、この人がいないと困るというような人間の標本のような人。昨年度のマネージャー稼業の反動か、春からは老いの影が深まってきたようだ。トロンボーンの音にも哀感が増してきたようだ。既に某企業に就職が決定し、彼の会話の中には、「…弊社の…」という語句が頻繁に用いられるようになってきた。

上 原 慎 一 (Vc) 教育学部

とろけるようにやさしい笑顔と、水滸伝の豪傑を思わせるような麗の濃さが、不思議な対照と調和を見せている、一見不可能な事を知らぬ顔をしてやってのけている人。その相互に反する彼の要素は、生活面にもよく現われ、教育学部の4年であることを誰にも忘れさせてしまう行状の数々に比べ(これは彼の名誉の為伏せておくが)、あのチェロを弾くときの真剣な眼差を見てもらえばよくわかる。その2つの要素の結合が彼のチェロそのものなのである。ということは、今宵チェロの一番前の男性を見て頂ければ判然とするであろう。

美しい環境づくりをめざして

日本ペイントは、塗料工業の
パイオニアとしての歴史の中
で培った技術力を広く生かし



良識あるケミストとしての立
場から、無公害指向の経営多
角化をはかっています。

電話 東京 (03) 474-1111

日本ペイント

大阪 (06) 458-1111

4年生のプロフィール



木 鰐 畝 上 鈴 浅
村 淵 村 原 木 野

柏 舟 亀 岩 福 浜 井
木 橋 山 田 永 崎 上

木 村 房 江 (Fl) 神戸薬大

忙しい勉強にもかかわらず、かろやかな足どりで薬大からはるばる六甲へ登ってこられるまじめさを私はいつも見習わねばと思ったものです。あのスマートな体にちょこんとついた童顔、そしてあの鈴のような声、まさしく大和なでしこを思わせる彼女ですが、その体の中を走るフルートに対する熱意にはなにか圧倒される思いです。本番近くになると、「ふけないんです」と嘆く私に「負けるものかと思って吹かなくてはダメ」とはげまして下さった頼りになる先輩であったのです。今宵の幻想で、彼女のフルートの名セカンドぶりをお聴き下さい。

鰐 淵 睦 美 (1st Vn) 教育学部

コンマスの隣に座り、妖艶なほほえみをたたえている。そして 1st パートの平均身長と平均体重をひたすら下げているのが彼女である。そして外見とは対照的にその声はアルトですごい味があり、* 1st のカゲの権力者* という噂を本当らしく見せている。この夏、教員採用試験の難関にみごと合格し、その姿が教壇の上に見られる日も遠くないであろうし、外見だけでは見分けのつかぬ生徒達にニラミをきかせるために、せめてハイヒールでもはいて努力しようとしている姿が目に見えるようである。去年は、会計という大役を努め上げ、その合理的な吸い上げ方から、将来の、よきやりくり女房の姿が、垣間見られるのであった。

畝 村 豊 明 (Vn) 工学部

彼はいいそがしい工学部に籍を置きながら、数少ない 2nd の男子部員として4年間勉学とクラブの両立を果たしたのである。今年は大学院をめざし一層勉学に励まれ、めでたく来年から入院生活をおくられることになった。合宿においては愛用のカメラ片手に女子部員ばかりを写し、彼のアルバムをかざっている。特に被写体に美人が多かったのをみれば彼のカメラはきっとミノルタなのであろう。

鈴 木 隆 (Hr) 工学部

彼の甘いホルンの調べを聞いて、場内でうっとりしてる女性がいるとかいないとか……ともかく昨年に続いてパートリーダーとして、顔からもあふれるような優しさの内にも、アタック・ハーモニーを追求して、弟子達を指導し、今日のホルンパートの隆盛をもたらしたことが彼の技量を証明してくれるだろう。今夏無事に大学院の試験をパスし、これから2年間ホルンを吹き続けるそうである。今晚は彼の入院前の最後の健康な演奏が聞けることでしょう。

浅 野 忠 (Vla) 教育学部

1, 2年でティンパニをたたき、3, 4年ではヴィオラを奏きそしてそのかたわらヴァイオリン、チェロにも精を出しているというから、オケ部員の中でも自己の音楽性を最大限に引き出そうとしている屈指の人である。そして近ごろ

では古今のクラシックのレパートリーは大かたこなした(?)ものともえ、歌謡曲のヴィオラ編曲にまで手をのばし特に中条きよしの“うそ”は出色の出来といえる。練習の他にも他方面にわたってその才能を遺憾なく発揮している彼が、今後教師(何や聞くとくろでは数学とか!)として輝やかなしい第一歩を歩み出すことを期待するでしょう。

柏木行夫(Vn) 工学部

指揮者が無理難題をいう2ndバイオリンで1stバイオリンから抜擢され、2年間パートリーダーとしていそがしい勉強のかたわら初心者のめんどろをよみてくれました。入部したての頃は、長髪、縞々ジーン、サンダルといういでたちで、まわりの人々の目を楽しませてくれた彼が、いつの頃からであったか、自ら自由を束縛されることによるこびを見だし、オーソドックスないでたちに変身しました。もう卒業とは…「おいしい人をなくしました。」という感じで残念でたまりません。また来て下さい。

舟橋桂子(Vn) 神戸薬大

一年間フルートを吹いておられましたが、激烈な生存競争に負け、バイオリンに転向されました。

バイオリンではよい指導者にめぐまれ、めざましい上達ぶりで、セカンドの他の初心者に「私もよい指導者さえあれば……」とぼやかしたものです。

4年間薬大からはるばる六甲の山までのぼってこられました。ごくろうさま。ショートカットを4年間通し、くりくりした目で、楽譜をにらんでおられた姿がみられなくなるのはさびしいことです。おしあわせに…!

亀山泰代(Vla) 教育学部

美人揃い(?)のヴィオラを代表する人である。今年はパートリーダーとしてその責を十分に果たしたといえよう。兵庫県の片田舎(?)の揖保郡という秘境から神大へ毎日やってくる人で、体力をほとんど通学で消耗してしまうらしいがその割にはビオラ下級生の女子を統轄し多大な影響をおよぼしているなど、なかなか意気さかんである。元来しっかりした人らしいが卒業をひかえ最近では何やら優しさあふれめっきり女っぽくなったとか…そのあたりの理由は察しかねるが卒業後は音楽の先生となられるらしく、そのピアノと美声と美貌で多感な生徒のあこがれとなるであろう。

福永さち(Vn) 教育学部

セカンドバイオリンに初心者が多いので、ともすれば指揮者の怒りをさそった時期をのりこえ、めでたく「幻想」では1stバイオリンをひかれます。教育学部の理科で実験におわれるいそがしい身なのに、ねばり強いその性格で、バイオリンをマスターされました。人よんで「しらけのサッチャン」ということですが、もちまへの明るさと毒舌で、まわりをアクセラカンとさせたその彼女がいなくなると、セカンドも寂しくなるでしょう。4年間御苦労様でした。

浜崎芳子(Vc) 文学部

女性でありながら、男性チェリストを圧する彼女のチェロの音に、まだまだ未熟な小生は尊敬の念を払うのである。その音の源は彼女のおおらかな性格であると思われる。その豊かな音色は彼女のやさしさも物語っているようで、傍にいた小生もふと幸福な気持ちになったのである。——練習場で——「浜崎さん、ここどうやって弾くんですか。」浜崎:「ううむ、知らん。」この一言によって、いままでの幸福もふき飛ばされそうになったのである。

井上康雄(Bass) 神戸外大

細くすんなりした姿、丸く柔かな顔、だれにでも親しみやすさを感じさせる彼であるが、その彼が愛器を抱いて、コウコツとしてベースを弾いている姿を見ると、いかに彼がベースを、音楽を愛しているかわかるであろう。

そしてその低音は、容姿とは逆に太くまた重厚でオケの縁の下の力もちとして、低音をリードしていくのである。

ギャンブルより勉強、勉強よりもクラブを愛する彼の練習熱心なことはいまでもなく、後輩であるわれわれは、時としてそのモーレツな練習のために手がはれあがることもある。

「来年もまたひかせてくれよ」という彼、就職してもまだ神大に顔を出してくれるだろう。

音 楽 監 督
指 揮
副 指 揮
コンサートマスター
楽 器
楽 譜

◎コンサートマスター
○パートリーダー